

いしかわ 歴史遺産

Ishikawa Historical Heritage



「いしかわ歴史遺産」MAP

- 09** 2017年度認定
能登国府を探る
～能登立国1300年～(七尾市) P9
- 10** 2017年度認定
能登の禅の古刹と古道を歩く
～永光寺から總持寺へ～
(輪島市/羽咋市) P10
- 11** 2017年度認定
能登の王墓
～半島を舞台に躍動したノトの王～
(羽咋市/志賀町/中能登町) P11
- 12** 2018年度認定
大聖寺十万石城下町
～江戸時代の町絵図で歩ける町～
(加賀市) P12
- 13** 2018年度認定
いにしへの記憶をたどる道
～俱利伽羅峠～
(津幡町) P13
- 14** 2019年度認定
能登の山岳信仰の霊場
～石動山と山麓の歴史遺産～
(中能登町) P14



- 01** 2015年度認定
三つの寺院群と茶屋街
～歩く・観る・祈る～(金沢市) P1
- 02** 2015年度認定
七尾城が語る「能登の
戦国都市物語」(七尾市) P2
- 03** 2015年度認定
平安の世の歴史物語が息づく
歌舞伎のまち・小松(小松市) P3
- 04** 2015年度認定
平家の末裔 時国氏の繁栄
(輪島市) P4
- 05** 2015年度認定
漂着神(ヨリガミ)の聖地
～日本海交流が伝える祈りと
祭りの文化財めぐり～
(羽咋市/志賀町/宝達志水町) P5
- 06** 2016年度認定
きらめきに包まれるまち
～今に息づく金沢の金箔～(金沢市) P6
- 07** 2016年度認定
加賀の白山と水の文化(白山市) P7
- 08** 2016年度認定
能登半島を彩る深紅の花
～のとクリシマツツジ古木群～
(七尾市/輪島市/珠洲市/羽咋市/志賀町/
宝達志水町/中能登町/穴水町/能登町) P8

令和3年(2021)3月 石川県教育委員会 発行

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1-1

TEL 076-225-1844 FAX 076-225-1843(文化財課)

<https://www.hot-ishikawa.jp/ishikawa-rekishiisan/>

【七尾に花開いた畠山文化】

能登国支配が最も安定した七代義総の時代には、七尾城下の整然とした町並みが整備された。城の麓の城下町から港付近の能登府中まで、家並みは一里(約4km)余り続き、その様子は「千門万户」と称えられた。



【攻防と落城にまつわる伝承】
籠城戦の際、白米を流すなどして城内に水が十分あるように見せかけて敵を欺いたという「白米伝説」は全国各地に残る。七尾城の戦いにも白米伝説があり、謙信は滝の流れを鳥が見ついたことからこれを見破ったとされる。

【七尾城の攻防】

戦国時代末期には内乱で畠山氏の権威が失墜し、重臣が領国支配の実権を握ることとなった。また山麓には敵襲に備えて巨大な惣構えが築かれた。しかし1577(天正5)年9月、上杉謙信により七尾城は落城する。

継がれている。

七尾城は、戦国武将として著名な上杉謙信も絶賛した国内屈指の山城であり、苔むした石垣や本丸からの壮大な眺望から七尾城をめぐる兵どもが夢の跡を体感できる能登の代表的な旧跡である。

七尾城の麓には、湊まで連なる「千門万户」と謳われた賑やかな城下町が連動し、二帯は能登国の政治・経済・文化の中心として繁栄し、京の文化人との文芸活動から芽生えた畠山文化が開花した。狩野派と肩を並べた絵師長谷川等伯は、この頃七尾で生まれ、畠山文化により素養を磨いている。

幾時代を経ても、七尾城山は市民に親しまれ、往時を偲ぶ文化財や伝承が受け

Ishikawa Historical Heritage
No.02
2015年度認定

七尾市
七尾城が語る「能登の戦国都市物語」



七尾城跡本丸

七尾城跡調度丸～桜馬場

お問い合わせ先/七尾市教育委員会スポーツ・文化課(0767-53-8437)

Ishikawa Historical Heritage
No.01
2015年度認定

金沢市
三つの寺院群と茶屋街へ歩く・観る・祈る

金沢には、城下を取り囲んだ三つの寺院群に150を超える寺社があり、坂路や迷路のような小路を巡れば、静寂の中に四季折々の変化に富んだ散策を楽しむことができる。また、寺院群に近接した三つの茶屋街のキムスコと呼ばれる出格子のまちなみを歩けば、金沢芸妓の三味線や鼓の音色が聞こえてくる。

三つの寺院群を歩き観て、祈りを捧げ、茶屋街で伝統芸能や食を楽しめば、きっと訪れた人の心に安らぎを与える旅となるだろう。

【主計町茶屋街(重要伝統的建造物群保存地区)】
茶屋街の最盛期に行われた三階の増築が往時の繁栄を伝える。裏通りは旧来の茶屋の様式を維持した建物が残る。

【卯辰山山麓寺院群(重要伝統的建造物群保存地区)】
旧北国街道から山側の寺院へ向かってのびる参道を基本とした独特の町割が残り、坂道や長い階段・迷路のような小路に45以上(地区内37ヶ寺)の寺院が建つ。

【ひがし茶屋街(重要伝統的建造物群保存地区)】
茶屋街創設時の敷地割とともに、「志摩」(国指定重要文化財)をはじめとする藩政期の希少な建物が数多く残る。二階正面を高くして軒高を揃えた茶屋が通りの両側に連なる。建物の一階はベンガラ塗りのキムスコ(出格子)が美しい。

【小立野寺院群】
前田家ゆかりの大きな寺院が数多く建立されている。「八坂」や「嫁坂」など数多くの歴史的な坂道がある。

【寺町寺院群(重要伝統的建造物群保存地区)】
約65の寺院(地区内52ヶ寺)がある金沢城下最大の寺院群。野田山墓地へ続く道筋に整然と寺院が並ぶ「旧野田道」と、建ち並ぶ町家の奥に寺院が見え隠れする「旧鶴来道」から成る。

【にし茶屋街】
金沢の三茶屋街の中で芸妓の数が最も多い、活気に満ちた茶屋街。芸妓の稽古が行われる「西検番事務所」は、1922(大正11)年築の洋風建築で、国の登録有形文化財。



ひがし茶屋街

卯辰山山麓寺院群

お問い合わせ先/金沢市文化スポーツ局文化財保護課(076-220-2469)

小松市
平安の世の歴史物語が息づく
歌舞伎のまち・小松

歌舞伎「勸進帳」は、加賀国「安宅の関」を舞台とした「智・仁・勇」の物語である。小松は安宅の関跡をはじめ、加賀国府跡、朝廷と争った白山新興勢力の宗教遺跡群、伝説の白拍子「仏御前」にまつわる史跡、木曾義仲との悲劇を生んだ斎藤別当実盛の兜など、源平にまつわる歴史遺産が数多く残る。

室町時代には謡曲「安宅」「仏原」「実盛」が誕生し、地域の人たちが芸能に励む土壌となった。そして江戸中期には、町衆たちの心意気が、曳山子供歌舞伎誕生のエネルギーとなり、お旅まつりに取り入れられ、現在まで子供歌舞伎は続けられている。平安の世の歴史物語が息づく「歌舞伎のまち」を創り出している。

【加賀国府の設置と白山信仰の寺】
白山信仰の布教寺院、中宮八院が国府勢力と対立し、後白河法皇に強訴して加賀国司を流罪とする。この事件を契機に平家の台頭を招き、貴族社会から武家の世へと移り変わっていく。那谷寺(国指定重要文化財等)は白山信仰の寺で、白山三カ寺の一つである。



【美しい白拍子・仏御前の伝説】
14歳で京に上り平清盛の寵愛を受けるが、みづからの栄華にむなしさを知り17歳で出家した仏御前。やがてふるさとへ帰り、21歳の短い生涯を終えたという。

【実盛の兜と源平の悲劇】
平家の武将、斎藤別当実盛は、木曾義仲軍と対した「篠原の戦い」で奮闘するも討ち死に。義仲は幼い頃に実盛に命を救われており、恩人を手に掛けたことを悟って人目もはばからず涙したという。多太神社には義仲が実盛の供養のため奉納したとされる兜一式(国指定重要文化財)が伝わる。

【歌舞伎になった「安宅の関」伝説】
兄の頼朝に追われ、みちのくへと逃げる義経一行は、安宅の関を通過する際、関守・富樫の厳しい取り調べにあう。弁慶は危機を乗り切るため即興で白紙の勸進帳を読み上げ、さらには主君である義経を打ちすえ、難を逃れる。歌舞伎「勸進帳」の舞台であり、お旅まつりの曳山行事(県指定無形民俗文化財)の子供歌舞伎でも演じられている。

輪島市
平家の末裔時国氏の繁栄

平氏政権といわれ権勢を振るった平氏一門。平清盛の側近として活躍した権大納言平時忠も、平氏の凋落とともに能登へ配流された。しかし、その子孫は活発に地域を開発し、製塩や海運にも携わり、豪農として、地域の一大領主として繁栄する。能登平氏の末裔「上時国家」「時国家」の両家は、歴史の語り部として平家伝説を今に伝えている。

【時国家(国指定重要文化財)】
加賀藩領となった時国家は、代々藩の山廻り役や、御塩懸相見人、御塩方吟味人などの役職を務めた。時国家住宅は時国家の分立後に造営された家屋で、茅葺入母屋造り。周囲に椎の古木が茂る池泉観賞式の書院庭園には、5月になるとキリシマツツジが赤々と咲き誇る。



【上時国家(国指定重要文化財)】
上時国家は幕府領の大庄屋である一方で北前船による交易を拡大した。幕末には千石船を5艘所持し、海運による収益は農業・製塩を大きく上回った。上時国家住宅は、28年の歳月をかけて造営した豪華な屋敷で、贅を尽くした奥座敷は「大納言の間」と呼ばれている。



時国家住宅

上時国家住宅

お問い合わせ先/輪島市教育委員会文化課(0768-22-7666)



子供歌舞伎 勸進帳

那谷寺本堂

お問い合わせ先/小松市にぎわい交流部観光文化課(0761-24-8130) こまつ曳山交流館(0761-23-3413)



【金城霊沢(兼六園)】
兼六園の敷地内にある金沢の地名の由来となった泉。そのほとりには、菅原道真を祭る金沢神社が鎮座する。

【本願寺金沢別院】
金沢西別院とも言われる同院は加賀一向宗の拠点であった「金沢御堂」を前身とした寺院である。内陣は金沢の金箔を使い、光り輝く姿は独特の深みがある。

【加賀鳶梯子登り】
加賀鳶梯子登りで使用されるまといは金箔で飾られ、その製作技術は市選定保存技術に選定されている。

【金沢市立安江金箔工芸館】
金箔に関する美術工芸品、金箔製造用具を展示する国内唯一の金箔の博物館。金箔の性質や出来上がるまでの工程を分かりやすく紹介している。

【金箔製造販売関連施設】
現在、市内では金箔の製造販売に携わる業者は81店。そのうち7店で、箔貼り体験ができる。

金沢の地名は、兼六園にある「金城霊沢」が、芋掘り藤五郎という青年が掘った山芋についた砂金を洗った泉であるとの伝説が由来といわれている。金箔は、金を打ち延べて約1万分の1mmまで薄く延ばし、それを、建築、彫刻、美術工芸、日用品にわたり活用する工芸素材であり、現在、日本の金箔は、ほぼ全てが金沢で製造されている。金沢の金箔は、文化財の建造物や美術工芸品、現代にも伝わる伝統工芸ばかりでなく、日常生活の様々な場面でも使用されており、人々の暮らしはきらめきに包まれている。

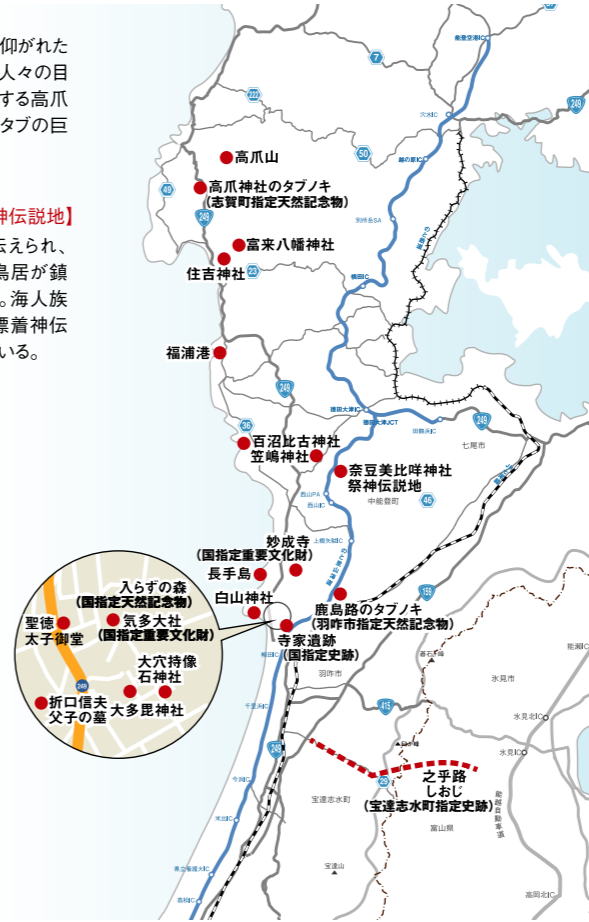
Ishikawa
Historical Heritage
No. 06
2016 年度認定

金沢市
きらめきに包まれるまち
今に息づく金沢の金箔

【高爪山と高爪神社】
高爪山は古くから信仰の対象として仰がれた霊山であり、日本海の沖を行き交う人々の目印でもあった。ふもとの集落に鎮座する高爪神社は、県下第2位の大きさを誇るタブの巨木を神木とする。

【奈豆美比咩(なずみひめ)神社祭神伝説地】
安津見地区の祭神の来着地と伝えられ、「おたび所」と呼ばれる平坦地に鳥居が鎮座し、タブの老木が神木として繁る。海人族「安曇氏」との関わりが指摘され、漂着神伝承にともなう信仰行事を今に伝えている。

【気多大社とその周辺】
気多大社の祭神である大国主命は、出雲から300余神を引き連れて来臨したとされる。タブなど能登の原生植生を残す社叢を「入らずの森」とし、禁足と奥宮祭祀を守っている。また気多大社周辺には、大穴持像石(おおあなもちがたいし)神社、大多毘(おおたび)神社など、タブの巨樹が濃密に分布しており、漂着神が寄り来た中心地がこの地であることを示している。



日本海に洗われる口能登の沿岸地域は、先進の技術と共に多様な信仰文化も受け入れた。
出雲からの来臨と伝える気多大社は、はるか大陸とも結んだ北陸道沿岸地域の総鎮守であり、寺家遺跡はその古代神祇の発生を伝える。各地に点在する漂着伝承、タブノキの巨樹とその信仰は、異世界から寄り来た「漂着神(ヨリガミ)」たちの足あとである。この地の神々を訪ねれば、日本海交流と生きた古代能登人の祈りと祭りの原風景を見ることが出来る。

Ishikawa
Historical Heritage
No. 05
2015 年度認定

羽咋市、志賀町、宝達志水町
漂着神の聖地 日本海交流が伝える祈りと祭りの文化財めぐり



縁付金箔製造



金城霊沢

お問い合わせ先/金沢市文化スポーツ局文化財保護課(076-220-2469)



気多大社拝殿



妙成寺伽藍

お問い合わせ先/羽咋市教育委員会文化財課(0767-22-5998)



【大谷ののとクリシマツジ (池上家)】
能登を代表する優れた樹形を持つ名木。樹齢300年を超えると推定される。

【五十里ののとクリシマツジ (酒井家)】
のとクリシマツジが連なる景観が素晴らしい。紫色のものでは日本最大とされる古木。

【赤崎ののとクリシマツジ】
加賀藩第十三代藩主前田斉泰が能登を巡視した際、株分けを所望した名木の子孫。

【地福院ののとクリシマツジ】
中居湾を見下ろす絶景とともに、樹齢300年と推定される古木など複数の、のとクリシマツジがある。

【日光寺ののとクリシマツジ】
樹齢200年と推定され、根本から6本の幹に分かれる。県下でも有数の大きさを誇る。

能登半島の里山里海景観に古くから彩を添えてきた「のとクリシマツジ」は、毎年5月上旬には美しい濃赤の花が、秋には赤色の紅葉が人々の目を魅了させる。クリシマツジは、近世に関東で栽培が流行し、能登には関東(江戸)や関西から運搬されたといわれており、能登半島には、現在も樹齢100年を超える古木が500株以上も存在し、日本国内でも稀に見る規模で古木が現存している。「のとクリシマツジ」は、古くから能登の寺社や旧家の庭園などに植えられ、花を鑑賞する文化があったことを示し、能登の人々の拠り所となっていたことを物語る。



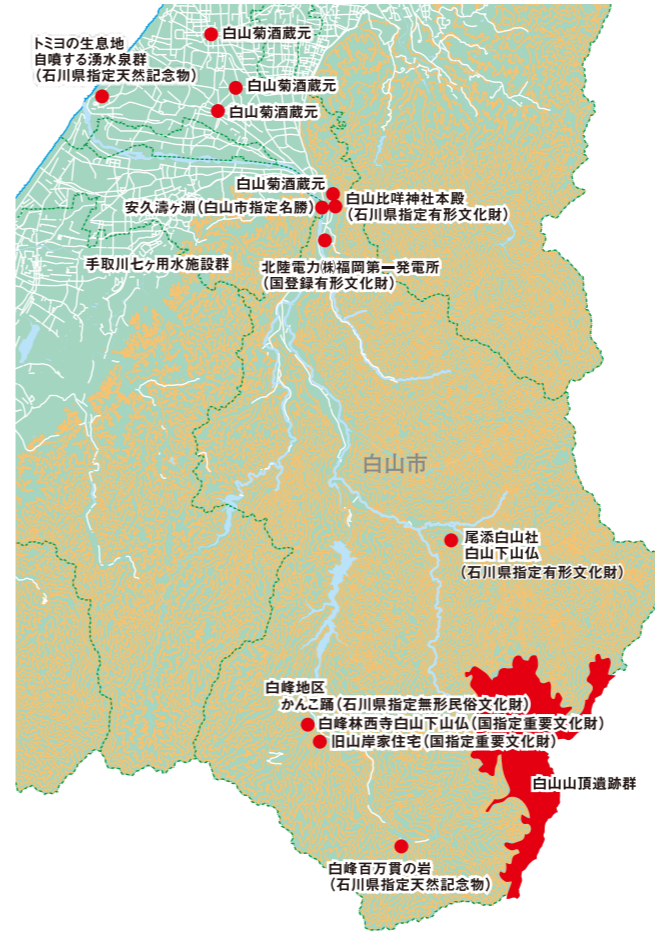
七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町
能登半島を彩る深紅の花
のとクリシマツジ古木群



五十里ののとクリシマツジ

大谷ののとクリシマツジ

お問い合わせ先/能登町教育委員会(0768-62-8537)



【白山菊酒蔵元】
白山の「水の恵み」を生かした伝統産業。その歴史は古く、室町時代から都人にも知られた銘酒。現在は5つの蔵元が酒造りを営んでいる。

【七ヶ用水施設群】
安久満ヶ淵の地下岩盤を貫き、7つの用水の取入口とした。1903年に完成。

【白山比咩神社】
霊峰白山を御神体とする。古より、加賀馬場の本宮とされ、国宝「剣 銘 吉光」をはじめ、11件の国宝・重要文化財が伝わる。

【白峰地区(重要伝統的建造物群保存地区)】
「ミンジャ」と呼ばれる元和年間に作られた生活用水網沿いに白峰独自の建築物が立ち並ぶ。

【白峰林西寺 白山下山仏】
林西寺には、かつて白山山頂部で本地仏として祀られていた仏像9躰が安置される。

日本三名山の白山は、越の大徳と讃えられた泰澄によって養老元年(717)に開山されたことから女神に例えられ崇められており、この霊峰を源流とする手取川が神々しいことから女神に例えられ崇められており、この霊峰を源流とする手取川は、山間の谷間集落をとり、平野へ出て扇状地を形成し、日本海へ注ぐ。恵みの水は、信仰心をもたらし(祈る)、暮らしを支え(使う)、経済的な発展を生み(醸す)、霊峰より出ずる見事な水の文化を創り上げた。



白山市
加賀の白山と水の文化



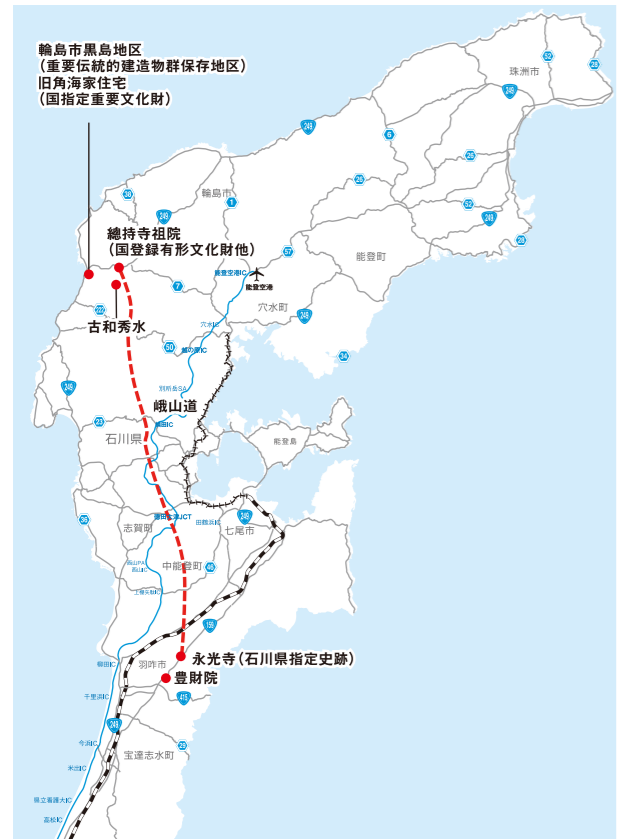
白山山頂

白峰地区

お問い合わせ先/白山市観光文化スポーツ部文化財保護課(076-274-9579)

【輪島市黒島地区】

北前船の船主や船員の居住地として発展した集落。總持寺における輪番住職の交代では、黒島の森岡家で休憩、正装して入山するのが習わしであった。旧角海家住宅は黒島を代表する廻船問屋の住宅で国の重要文化財に指定されている。



【總持寺祖院】

行基の創建と伝えられる諸岳観音堂を、元亨元年(1321)に住持の定賢が瑩山にゆずり、曹洞宗總持寺としたのに始まる。大本山として永らく宗門興盛の中心となった。

【峨山道】

元は山岳信仰の修験道。瑩山により總持寺が開かれ、總持寺二祖峨山(永光寺兼任)が20余年に渡って駆けたと伝わる。現在も峨山道巡行やトレイルランが行われ、峨山禪師が往来したであろう道が今も人々に愛されている。

【永光寺】

瑩山が正和元年(1312)に開創した。その伽藍は「永光寺」と呼ばれ、曹洞宗伽藍の典型・祖形とされる。

【豊財院】

瑩山禪師が開いた能登最初の禪道場。永光寺とともに、能登の曹洞禅のルーツ。寺蔵の平安時代後期の観音立像3体は、国の重要文化財。特に馬頭観音は、国内最古級とされ貴重である。

鎌倉時代に民衆救済の新仏教の一つとして生まれた禅の教えは、瑩山紹瑾により能登の地に伝えられ、最初の道場として豊財院を開き、続いて永光寺、總持寺を開山するに至った。

瑩山の弟子、峨山紹碩はその教えの発展の礎を築いた。峨山が伝道のために歩んだ永光寺と總持寺を結ぶ険しい山道は、やがて「峨山道」と呼ばれるようになる。

厳しい「禅」の修行で知られる教えは、前田家の庇護を得て発展し、全国へ広がり、多くの修行僧を受け入れている。能登の「禅の古刹と古道」を訪ねれば、禅の文化を肌で感じることができる。



輪島市、羽咋市
能登の禅の古刹と古道を歩く
〜永光寺から總持寺へ〜



總持寺祖院山門



永光寺伽藍

お問い合わせ先/輪島市教育委員会文化課 (0768-22-7666)

【須曾蝦夷穴古墳】

須曾蝦夷穴(すそぞあな)古墳は7世紀後半に築造された一辺18mの方墳で、雄穴・雌穴の2つの横穴式石室を持つ。東北遠征に従軍し戦死したと「日本書紀」に記載のある能登巨身龍(ののおみまむたつ)の墓とも言われる。



【院内勅使塚古墳】

院内勅使塚(いんないちよくしつか)古墳は7世紀前半に築造された一辺約23mの大型方墳。北陸最大級の巨石積みの横穴式石室を備えている。被葬者は、能登国造である能登臣につながる人物とみられている。

【能登国分寺跡附建物群跡】

全国に建設された国分寺の一つ。発掘調査等で金堂・塔・講堂・南門・堀・建物群が発見され、瓦、瓦塔、木簡、和同開珎等が出土。

【熊甲二十日祭の杵旗行事(国指定重要無形民俗文化財)】

大伴家持の巡行地でもあった熊来村に鎮座する久麻加夫都阿良加志比古神社(くまかぶとあらかしひこじんじや)の例大祭。祭神は朝鮮半島から渡来してこの地に鎮座したと伝承されている。

【大地主神社(青柏祭の曳山行事)】

大地主神社(おおとこぬしんじや)は能登立国と同じ養老2年(718年)に創建されたと伝わる。神社の例大祭である青柏祭に奉納される巨大な山車は「でか山」と呼ばれ、北前船を模したものとも伝えられる。平成28年11月、「青柏祭の曳山行事」を含む「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録された。

養老2年(718)、能登国が立国し、現在の七尾には、古府や国分の地名や、多くの文化遺産が今も残ることから、この地に国府が存在したことは確実とされている。

七尾には、古墳時代に有力豪族の能登臣が国造に任命されて勢力を築き、七尾湾という天然の良港を擁していたことが国府選定に有利に働いたとみられる。

天平20年(748)、能登を旅した大伴家持は、この地の情景を詠んだ和歌を万葉集に遺した。また、七尾には「熊甲二十日祭の杵旗行事」や「青柏祭の曳山行事」など古来から受け継がれてきた祭礼が今も行われている。

能登国府が置かれた七尾には、先人が紡いだ歴史と文化が今も息づいている。



七尾市
能登国府を探る〜能登立国1300年〜



能登国分寺跡



須曾蝦夷穴古墳

お問い合わせ先/七尾市教育委員会スポーツ・文化課 (0767-53-8437)

【山ノ下寺院群】

藩主の菩提寺であった実性院、芭蕉ゆかりの全昌寺や大聖寺地区の鎮守である加賀神明宮など7寺院1神社が連なる寺院群。「大聖寺藩史」によれば、その城下の整備に伴い、意図的に寺院を集めたとされている。宗派は禅宗、浄土宗、日蓮宗に限られていて、前田家と激しく対立していた浄土真宗の寺院は含まれていない。



【江沼神社長流亭】

宝永6年(1709年)に、大聖寺藩三代藩主前田利直の休息所として造られた建造物。藩邸の庭園の一隅に大聖寺川を臨むように建築された。

【大聖寺町絵図】

江戸後期の精密な大聖寺城下町全体絵図で、現在も残る道や町割を確認できる。

【実性院・大聖寺藩主一族廟所】

実性院は山ノ下寺院群の一角を占める大聖寺藩前田家の菩提寺。御霊屋と本堂は江戸時代のもの。御霊屋には歴代大聖寺藩主一族と殉死者の位牌が並ぶ。9月には萩が咲き彫り、『白萩の寺』としても知られている。廟所は大聖寺藩主全十四代の墓が一箇所に揃う。

【坂網猟】

大聖寺藩士の武術鍛錬の一環として伝承された猟法で、現在もほぼ同じ方法で行われている。



加賀市
大聖寺十萬石城下町
江戸時代の町絵図で歩ける町

白山信仰の中心地のひとつであった「大聖寺」を名前の由来に持つ大聖寺は、戦国時代には大聖寺城が築かれ、江戸時代には大聖寺藩の城下町として、庭園や長流亭を備える藩邸を中心に、武家屋敷や町屋、寺院などが建ち並んでいた。明治維新で大聖寺藩が消滅したあととも多くの歴史的建造物が残され、町割りもほぼ江戸時代のまま残っており、江戸時代の町絵図で街歩きを楽しむことができ。また、能楽等の芸能、嗜みや伝統的猟法「坂網猟」など大聖寺藩時代に生まれた伝統文化が現在にも息づいている。



江沼神社長流亭

実性院

お問い合わせ先/加賀市観光推進部文化振興課(0761-72-7888)

【吉崎・次場遺跡】

吉崎・次場(よしさき・すば)遺跡は邑知湯のほとりの微高地に形成された北陸を代表する弥生時代の集落遺跡。調査により、建物跡、土器、木製品が発掘され、近畿・東北・山陰地方などと、広く交流があったことが判明した。



【徳田燈明山古墳】

徳田燈明山古墳は能登最大の前方後円墳で全長83.5mの規模を誇る。能登半島の外浦・内浦間の交通の要衝に立地する古墳として、その性格は重要な意味を持つ。

【雨の宮古墳群】

能登地域全域に支配を及ぼすと見られる首長墓。邑知平野を望見する尾根上に築かれた。ヤマト王権との関係がうかがわれる豊富な副葬品が出土している。墳丘上に天日陰比咩神社(雨の宮)が鎮座し、雨乞いの社として、地域に引き継がれた。

【能登上布】

伝承では崇神(すじん)天皇の皇女が伝えたとされ、中能登町や羽咋市に伝わる最高級品の麻織物。「能登上布会館」が開設され、作業場と工程見学、製織体験もできる。

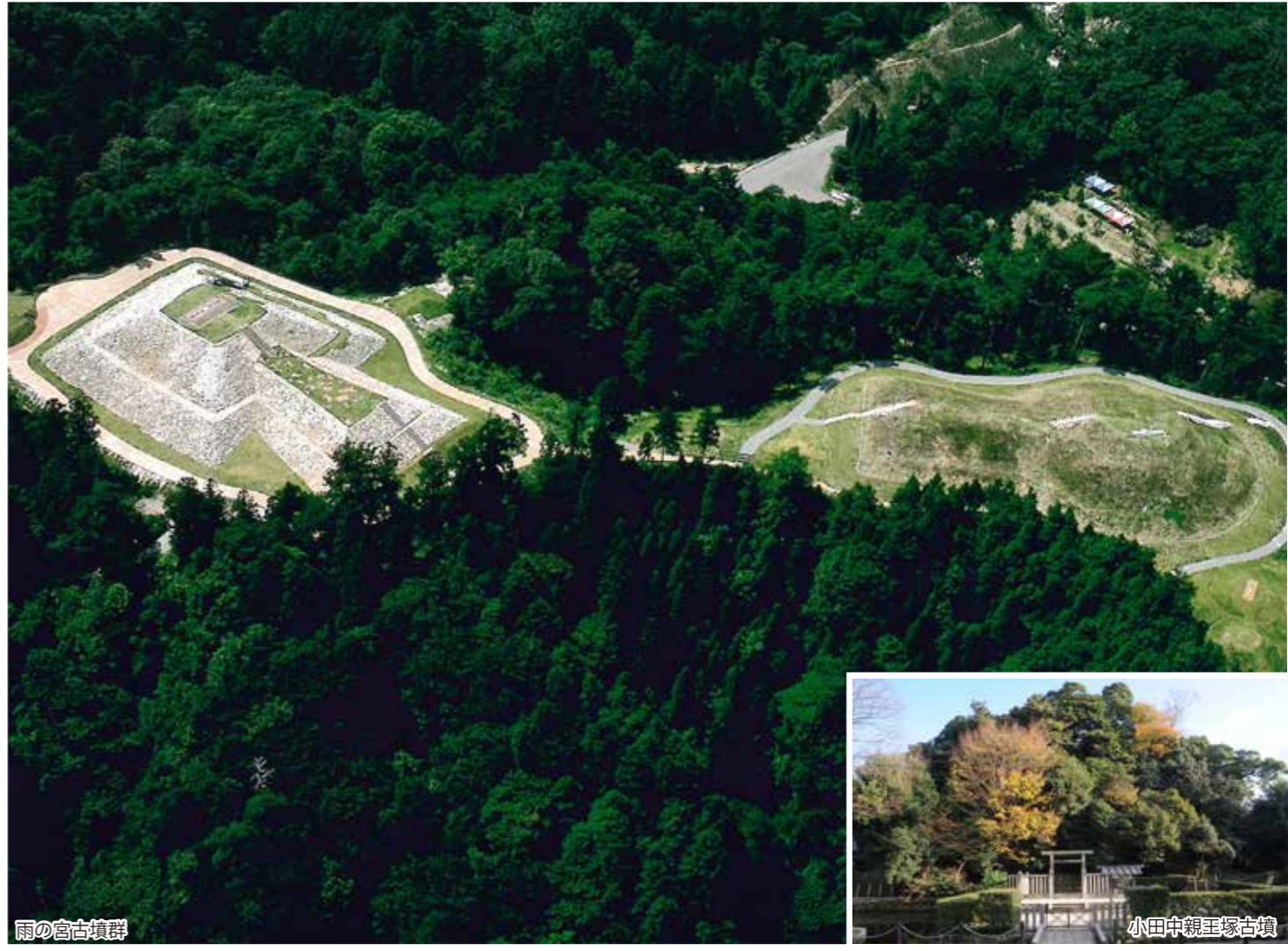
【小田中親王塚古墳】

小田中親王塚古墳は全長65mの円墳で崇神天皇の皇子大入杵命(おおいらきのみこと)墓とされる。邑知湯に流れこむ中小河川の上流部に位置することから、流域平野の支配者が埋葬されていると考えられる。陵墓として治定されるまでは、墳丘上に新王社(能登臣御祖神社)が存在した。



羽咋市、志賀町、中能登町
能登の王墓
半島を舞台に躍動したノトの王

日本海に大きく突き出す能登半島は、その地理的な環境から古来より多くの文化を受け入れてきた。ヤマト政権は前方後円墳に代表される王墓を各地に広め、古墳時代の王墓は、権力誇示のためのモニュメントとなった。能登では、4世紀後半から水陸の要所に「能登の王墓」というにふさわしい規模の古墳が築かれてきた。「能登の王墓」は時代を経て、墳丘上に社が建ち、地域の人々が祈りを捧げる場所へと変容しながらも継承され、様々な文化や伝承を生み出し、今も引き継がれている。



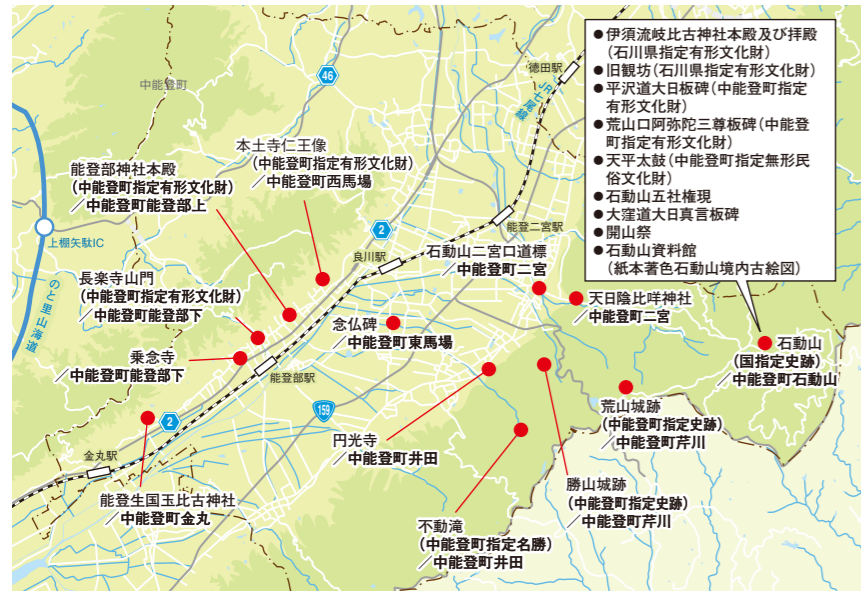
雨の宮古墳群

小田中親王塚古墳

お問い合わせ先/中能登町教育委員会(ふるさと創修館内)(0767-74-2735)

【伊須流岐比古神社本殿及び拝殿】

本殿は、承応2年(1653)、山頂にあった大宮の社殿として建立され、拝殿は元禄14年(1701)、神興堂として建立された。明治7年に大宮社殿を神社の本殿として移築し、神興堂は拝殿とされた。



【石動山五社権現】

石動山に祀られている神仏の総称。明治初期まで石動山内には五つの社が鎮座し、それぞれに祀られている神仏たちを五社権現と呼んでいた。現在は、伊須流岐比古神社本殿に安置されている。

【紙本着色石動山境内古絵図(しほんちやくしよくせきどうさんけいだいこえず)】

16世紀末から17世紀初頭頃に作製された石動山の境内絵図。石動山曼荼羅の性格を持つ。石動山資料館蔵。

【旧観坊】

江戸時代にあった58坊の院坊の内、現存する唯一の建物。



【不動滝】

熊野信仰をよりどころとする石動修験(いするぎしゅげん)の行場がで上がり、江戸時代以降は、地域の名勝としても広く知られるようになった。毎年7月5日は滝開きが行われ、滝行参加者で賑う。

【長楽寺山門】

石動山の入り口に建っていた仁王門を明治時代初期に移築。近世には長楽寺の男子が石動山僧坊の住職についていた。



伊須流岐比古神社本殿
お問い合わせ先/中能登町教育委員会(ふるさと創修館内)0767-74-2735

Ishikawa Historical Heritage
No. 14
2019年度認定

中能登町
能登の山岳信仰の霊場
石動山と山麓の歴史遺産

石川県と富山県の県境にそびえる主峰石動山は、古より神々が御坐す山として多くの人々を惹きつけてきた。平安時代より伊須流岐比古神社が鎮座する山内は、最盛期の中世には360余りの院坊に、僧侶3千人が暮らしていたと伝えられる。神仏習合の世界を形成していた石動山の信仰は能登を中心に遠く東北まで延び、石動山僧侶たちによって布教された。戦国の動乱から再興し、能登の霊場として定着していった石動山は、明治の神仏分離令により仏教色は一掃されたが、堂塔伽藍の痕跡は今なお残り、山麓の平野部では地域の人々によって石動山ゆかりの遺産が受け継がれている。

Ishikawa Historical Heritage
No. 13
2018年度認定

津幡町
いにしへの記憶をたどる道 倶利伽羅峠

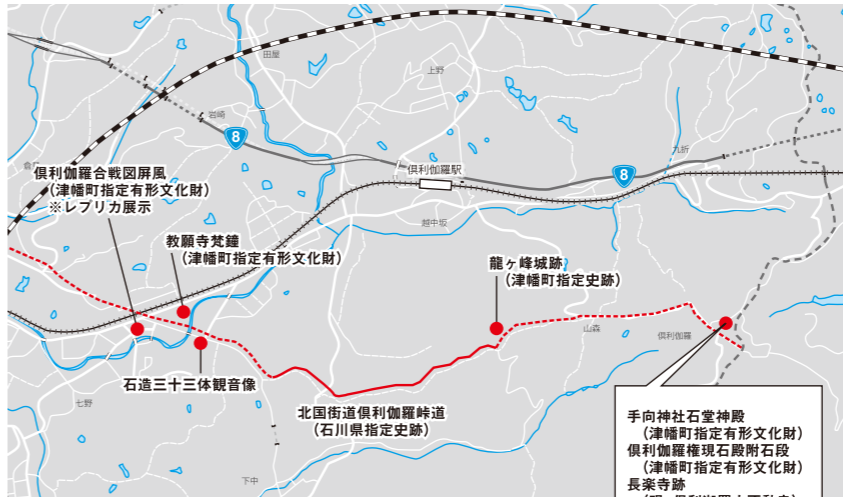
倶利伽羅峠は、石川県と富山県境(加賀と越中の境)に位置する。峠に至る道には蝸牛坂や一騎打ちとよばれる急峻な所も多く難所とされてきた。旅人は「手向けの神」に祈りを捧げ、頂上の泉などで疲れを癒しながらこの道を越えていった。また、峠は軍事的にも重要であったため、ここを舞台とした戦いが幾度となく繰り広げられており、城や陣跡が点在している。倶利伽羅峠を歩くことによって、いにしへの旅人と同じ目線でその歴史や、加越の眺望を体感できる。

【龍ヶ峰城跡】

街道を見下ろす交通上の要地に位置する山城跡。上杉謙信と一向一揆の戦いの場となり、後に佐々成政と前田利家が北国の覇権を争い、攻防戦が繰り広げられた。本城跡から加越国境沿いの城跡群が一望できる。

【倶利伽羅合戦図屏風】

江戸時代、津幡の絵師池田九華(いけだきゅうか)によって合戦の様子が描かれた屏風。源平盛衰記(げんへいせいすいき)に記載されている「火牛の計」の様子が描かれている。



【手向神社石堂神殿】

古くは万葉集に「手向の神」と記されている。近世初期に加賀藩三代目藩主前田利常により建立された。不動堂、のち御影堂と称した。神殿は越前の笏谷石(しゃくだにいし)製で、もとは九尺四方の高欄付きであった。

【北国街道倶利伽羅峠道】

倶利伽羅峠の西約2kmの末舗装区間。街道の景観は良好で、路面には道路側溝が残り、近世の街道の様子をうかがい知ることができる。

【長楽寺跡(現・倶利伽羅山不動寺)】

養老2年(718)善無畏三蔵(ぜんむいさんぞう)による開山と伝えられる古刹。門前には茶屋が並んでおり、峠越えの旅人の憩いの場ともなっていた。



長楽寺跡(現・倶利伽羅山不動寺)
お問い合わせ先/津幡町教育委員会生涯教育課(076-288-2125)